

平成29年11月定例会 経済委員会（事前）

平成29年11月21日（火）

〔委員会の概要 商工労働観光部関係〕

岩佐委員長

休憩前に引き続き、委員会を開きます。（11時41分）

これより、商工労働観光部関係の調査を行います。

この際、商工労働観光部関係の11月定例会提出予定議案について、理事者側から説明を願うとともに、報告事項があれば、これを受けることにいたします。

【提出予定議案】（資料①，②）

- 議案第1号 平成29年度徳島県一般会計補正予算（第4号）
- 議案第17号 徳島県立大鳴門橋架橋記念館等の指定管理者の指定について
- 議案第18号 徳島県立美馬野外交流の郷の指定管理者の指定について
- 議案第19号 徳島県立出島野鳥公園の指定管理者の指定について

【報告事項】

- 徳島県と岡山理科大学との就職支援に関する協定の締結について（資料③）
- 「四国デスティネーションキャンペーン」（四国DC）の実施結果について（資料④）

朝日商工労働観光部長

商工労働観光部から今定例会に提出を予定しております案件につきまして、お手元の経済委員会説明資料に基づき、御説明させていただきます。

この度の案件は、美馬野外交流の郷、出島野鳥公園、大鳴門橋架橋記念館及び渦の道の3件4施設についての指定管理に係るものでございます。

1ページをお開きください。債務負担行為でございます。

美馬野外交流の郷及び出島野鳥公園の指定管理者と締結する管理運営協定に関しまして、指定管理料として、限度額欄に記載のとおり、債務負担行為を設定するものでございます。

なお、大鳴門橋架橋記念館及び渦の道につきましては、指定管理者から納付金を納めさせる利用料金制により県の歳出を伴わないため、債務負担行為の設定はございません。

2ページをお開きください。

その他の議案等といたしまして、指定管理者の指定についてであります。

指定管理候補者選定委員会の審査結果を踏まえ、指定管理候補者を選定いたしましたので地方自治法の規定に基づき、議会の議決に付するものでございます。

各施設の指定管理候補者といたしまして、（1）ア、大鳴門橋架橋記念館及び渦の道につきましては、株式会社ネオビエント及び一般財団法人徳島県観光協会参加グループ、イ、美馬野外交流の郷につきましては、四国開発土木株式会社を選定いたしました。

3ページ、ウ、出島野鳥公園につきましては、株式会社コート・ベール徳島を選定いたしました。

いずれの施設も、指定管理期間を平成30年度から平成34年度までの5年間といたしております。

なお、候補者の選定理由、選定委員会における選定の経緯等につきましては、資料1、指定管理候補者の選定結果についてに記載のとおりでございます。

商工労働観光部において、今議会に提出を予定しております案件につきましては以上でございます。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

続きまして、この際2点、御報告させていただきます。

まず1点目は、徳島県と岡山理科大学との就職支援に関する協定の締結についてでございます。

お手元の資料2を御覧ください。

県内企業の人材確保に向け、これまで、関西の私立10大学と就職支援協定を締結し、県外大学生のU・Iターンによる就職を促進してきたところであります。

この度、来る11月29日、岡山理科大学との間において、新たに就職支援協定を締結することといたしました。

協定では、学生に対する県内の企業情報やUターン・Iターン促進事業等の周知、学内で行う合同企業説明会等の開催、県内企業等における、学生のインターンシップ受入れの支援などを実施することとしております。

今後とも、協定締結大学や県内大学との幅広い連携を一層強化することにより、優秀な若者が県内企業に就職し活躍できるよう、積極的に取り組んでまいります。

2点目は、四国デスティネーションキャンペーンの実施結果についてでございます。

お手元の資料3を御覧ください。

JRグループ6社の協力のもと、地方自治体及び地域の観光事業者等が一体となって、全国から四国への誘客を図る大型キャンペーンを平成29年4月1日から3か月間、実施いたしました。

四国DCの開催が平成27年3月に決定されて以降、本番に向けた主な取組としましては、平成27年6月、四国DC推進委員会を立ち上げキャッチフレーズなどの選定、目標数値を決定し、平成28年5月には、全国の旅行会社やJRグループ関係者約400人をお招きし、観光素材のPRや現地視察を実施いたしました。それから、全国の主要駅においても、四国DCの告知を行ってまいりました。

四国DC本期間においては、鳴門公園におけるオープニングセレモニー、四国まんなか千年ものがたりの出発式等を実施しました。

その結果、四国DCで目標として設定しておりました四国外から観光で来られた人の、延べ宿泊者数の対前年比10%増という目標に対し、5.8%の増という結果となりました。

また、この四国DCによる経済効果については107億5,000万円と算出されております。

四国DCの効果を更に広く浸透させ、国内外から数多くの皆様に魅力あふれる徳島を訪れていただけるようしっかりと取り組んでまいります。

報告については、以上でございます。

よろしくお願いいたします。

岩佐委員長

以上で、説明等は終わりました。

午餐のため休憩します（11時46分）

岩佐委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します（13時03分）

これより質疑に入ります。

それでは質疑をどうぞ。

長池委員

さっきの農林水産部でも聞いたんですが、指定管理者の件で少しお聞きしたいと思います。資料1、指定管理候補者の選定結果についてのほうで、それぞれ指定管理者で基準額というのが出ております。三つのうち美馬野外交流の郷と出島野鳥公園、こちら平成30年度がちょっと少なく平成31年度からは増額と、これはさっき農林水産部のほうでも聞きまして、消費税の関係ということになるほどと思っておったんですが、その最初の一つ目、大鳴門橋架橋記念館及び渦の道が年度ごとに基準額が違う、よく見ると基準額（納付金）というふうな形で指定管理料ではなく納付金ということで、ちょっと違うんですが、この年度ごとの違いの意味を教えてくださいなと思います。

森にぎわいづくり課長

大鳴門橋架橋記念館及び渦の道の納付金の、基準額の違いについての御質問でございます。大鳴門橋架橋記念館及び渦の道につきましては、渦の道の開設によりまして周辺の道路が非常に混雑する状況が発生するというところで、繁忙期におきまして周辺道路の渋滞対策を実施しているところでございます。3月から11月の日曜・祝日に警備員を配置するほか、ゴールデンウィーク、お盆、シルバーウィークの大型連休におきましては臨時駐車場を設けますとともに、シャトルバスの運行、それから交通誘導員、いわゆる警備員の配置によりまして渋滞対策予防を実施しておりまして、年によって連休が長期につながりまして、特にこの平成32年度につきましては、シルバーウィークがつながるといったことで、全体としてこの渋滞対策経費がかさむという部分で、納付金に差が生じているところでございます。

長池委員

渋滞対策の警備員数が、暦の上で必要な日数が平成32年度は多いということで、その経費を見込んで、その納付金とは指定管理者から頂く金額で、そこから経費を先に引いてあげるといったことだと理解しました。その年々で、そういった渋滞対策という必要と分かっている部分の経費を、基準額に盛り込んでおるといったことであろうと思います。

ほかには渋滞対策が必要な施設ではなさそうなので、差がないのかなあという気もしますが、これ渋滞対策が必要ってことはそれだけ人が来るわけですから、その分、売上げも上がるように思うのです。その逆に来る人の人数よりも経費がかさばるのか、どうかっていうのが、ちょっと私も疑問に思うところでございます。例えば年間を通しての売上げとい

うか、これはほとんど入場者の入館料と思うんですけども、そういうものは、年によっての最近の動向っていうのは、どういうもんなんですか。

#### 森にぎわいづくり課長

近年の収入の状況でございますが、平成26年度から平成28年度までの数値で申し上げますと、これ実施事業収入も含めた数値でございますが、平成26年度が約2億4,000万円、平成27年度が2億4,100万円、平成28年度が約2億4,000万円という状況でございます。ちなみに、平成27年度はシルバーウィークがあった年ということで、これがそのまま反映されたということではございませんが、若干、数値は上がっているといった状況でございます。

#### 長池委員

大体2億4,000万円ということで、渦の道も開設して随分時間がたって、私自身も何回も行っておる施設でございますが、今もある程度、安定して入館者がおるということで、そういう数字を察することができるんですが、言いたいのは、是非そういう経費はしっかりと見てあげて、納付する金額を下げたあげるとは、非常に良いことだと思うんですが、大鳴門橋架橋記念館なんかは随分古いようなイメージがありまして、ある程度、ソフトの企業努力はいろいろされておるように伺っておりますが、ハード面でもある程度は、整備していかなければいけない部分も出てきておるのではないかと思います。

そういう面はしっかりと、また県と指定管理者と協議して、この施設が徳島の玄関でございますので、玄関に入ってきていきなりの施設が、何か古びて人が余りおらんで、活気がなくなるといのは、余りよろしくないかと思います。是非しっかりと指定管理者と協議をして、架橋記念館並びに渦の道を一つの玄関の出迎える観光施設として考えていただきたい。

同時に平成32年度が、ほかの年度と比べて随分経費がかさむ、いわゆる渋滞対策が必要になるという数字が出ているということは、観光客が来てもらえるチャンスが多い年になるんだろうと思います。これはこの鳴門だけではなくて全県下、多分オリンピックの年かな、是非、平成32年度というのは大型連休が長く続くという年でもあるということを見込んで、商工労働観光部でも一つの目標というか、面白い年になるのではないかなと思いますので、少し頭の片隅に入れといて、対策とかを講じていただけたらと思います。

#### 岡田委員

長池委員がおっしゃっていただきましたけども、本当に大鳴門橋架橋記念館と渦の道っていうのは、鳴門の顔でもありますけど、徳島県の顔でございますので、是非、集客がしっかりできて、また、ここを起点として皆さんが、それぞれ県内に観光に足を運んでいただけるような設備と、情報発信もしっかりできるような拠点基地としての役割も併せてしていただきたいと思います。

私もこの値段のばらつきには、今の説明で理由は分かったんですけども、500万円もの差が何であるんやろうと思ったり、そういう配慮をしていただきながら、安全面も十分に対応できるように。それと平成32年度がオリンピックの年という話なんですけど、平成31

年度も県としてはラグビーワールドカップのキャンプ地誘致をしていたり、平成33年度には関西ワールドマスターズゲームズというのも誘致をしておりますので、その前後の年というのも、そのインバウンドという意味ではターゲットの年としています。そのあたりも含めて状況を見ながら、若干の配慮をできるような体制作りを、是非していただきたいと併せてお願いさせてもらいたいと思います。

それと先ほど、四国デスティネーションキャンペーンの実施結果を報告いただいたんですけど、11月13日に議員研究交流大会に東京に行かさせてもらって、そのときにも公共交通の2次交通の在り方っていうのが、観光資源の活性化につながるみたいなお話がございました。結局、食べるだけだったら車でもオッケーなんですけど、お酒を伴うと、やはり、2次交通っていう鉄道であったり、公共交通でのアクセスが良いところが集客が良いっていうお話でした。やはり、この四国デスティネーションキャンペーンの結果っていう話なんですけど、JR四国の活用の仕方として、もう少しいろんな在り方を考えてもらえたらというのを一つ思います。

それでこの間、鳴門市で蔵祭りっていう、大谷焼陶器祭りと一緒に酒蔵さんの祭りとしょ油屋さんの蔵祭りっていうのがあって、そこは阿波大谷駅から歩いて5分ぐらいのエリアになるんですけど、そうするとその酒蔵さんが新酒をたくさん出してまして、そのお酒の飲み比べをされていて、鉄道で来てる方はものすごい頑張っ飲んで、うんこれ違う、あれ違う、これがどうのこうのっていうように参加されているんです。

やはり、車で来られている方は、車やけんすいませんっていうので、若干、冷め気味のイベントの参加になってたんですけども、その方は、買って帰って家で飲みますっていうような対応だったんですけど、JR四国の汽車の活用っていう意味でイベントとジョイントできるような在り方を是非、検討していくこともしてほしいんですけども、そういう活用方法はいかがですか。

#### 黄田観光政策課長

ただいま、JR四国の列車の活用という関係で御質問を頂いております。

直接的ではないか分かりませんが、今回、四国DCの関係につきましては、県西部でまさしく4月1日から、観光列車であります四国まんなか千年ものがたりの運行が開始をされたところとございまして、四国DCの期間中につきましては96%程度の乗車率という形で、かなり高い割合で御乗車いただいて、この傾向は今も続いておると伺ってるところとございまして。こういう形で観光列車等を核として、その地域の観光振興を図るということは、ツールとしては非常に大きなことと思います。JR四国さんでもいろいろと観光列車を走らせているところとございまして、委員からお話がありました列車を活用した観光振興につきましては、JR四国さんのほうとも、どういうことができるかということで、お話をさせていただければと思います。

#### 岡田委員

当然、JR四国のダイヤ運行の中での取組になるので、基本は安全な走行と決まった時間に到着、発着できるっていう、先日も20秒早く出たので謝罪文を出してた東京の電車会社がありました。それが日本の時間を守って運行するっていう、JRというか公共機関の

一つの使命と思われてるところもあります。それが基本なんですけども、それにプラスアルファして、やはり乗ってて楽しい、移動して楽しい、2時間があっという間に終わったよっていう成功事例は、四国まんなか千年もののがたりっていうものだと思うんです。それは悲しいかな県西部だけの話であって、徳島駅発着でもなければ、鳴門駅出発でもなくって、県内東部の観光振興ができてないというのがありながら、全然そっちには手付かずでできていません。実際に大谷の酒蔵祭だったら、皆さん、大谷駅から歩いてきてるよっていう方が何人もいらっしやったり、汽車の時間があるけん、もう帰るわなって言うて帰られよう方もかなりいらっしやったので、かなりと言ってもほぼ車でおいでとったけど、それでも10人、20人いらっしやったと思います。特に、男性はお酒を飲むのが目的なので、皆さん汽車に乗ってこられてたっというところで、そのあたりの活用の仕方は、やはり、ネットワークというか広域連携というか、情報発信とその広域な発信ができるように、それもJRも協力してもらいながらその情報が表にできるように是非、県も情報発信をうまくしてもらって活用できるような取組につなげてもらいたいと思います。

2月になると今度、池田での四国酒まつりっていう日本酒の祭りがあって、あれは、多分、徳島駅から池田駅に行くまでの列車は臨時便が出るぐらい大人気っていうふうに聞いていますので、その事例からしてもお酒を飲むイベントには、皆さんJRを活用するのはもう定着しているように思いますので、そのあたりうまくPRと誘客ができるような仕組みを構築していただきたいと思います。

もう一つ、鳴門線の間にはレンコン畑があり、その中をJRが走るんですけど、6月から8月の期間限定で、車では見えない位置でちょっと汽車が高くなっているの見下ろすような形でレンコン畑の真ん中をずうっと通り抜けていって、本当に極楽浄土かっていうぐらいのきれいな景色が見えるんです。多分それを知っている人は知ってるけど、知らない人は知らないし、日に日に乗っている人は気にもとめないんです。でも実際、ハスの花が咲いているレンコン畑は、観光資源としてどうかっていうのをずっと言われてて、農家さんたちも見に来てほしいって話はしているんですけど、人間の高さぐらいにハスの葉がなるので、地面からは見えないんですけど、ちょうどJRに乗りますと上からの眺めは非常に視野が広がって、右も左もレンコン畑っていうものすごいすごいきれいな景観があります。是非、私が1番のお薦めでもありますし、それが可能であれば徐行してもらって、SNSスポットというようなキャッチフレーズで打っていただいて、朝夕の通勤時間は外してもらって、その昼間、バスか汽車か分からない1両で走ってる時間帯とかを活用してもらって、そういう集客をするというのも一つです。この頃、鉄道マニアの人、カメラのものすごいマニアの方もいらっしやいます。それぞれみんな撮れない場所で撮った写真とか、見たこともないような景色をみんなに紹介したいっていう、本当に追っかけのものすごいカメラの熱心な方がいらっしやるので、そういう方たちを刺激すると、年齢に関わらずそれぞれカメラをされてますので集客につなげていただきたい。また、写真はどこかに展示してもらえるので、これ、どこで撮ったんと必ず、話題になりますから、そういう方たちのネットワークを使っただけのような取組も、是非、県としても後押ししてもらって、主体はJR四国さんなので、なかなかハードルが高いのは分かるんですけど、このあたりは、一つずつ協力してお互いに盛り上げていく姿勢をもってもらったらと思います。一応、100億円余りの経済効果があったってというような結果は出てるんですけど、

それにプラスアルファして、この四国デスティネーションキャンペーンが終わってからも変わらず100億円があるよっていう取組を、是非これからも続けてもらえるようお願いしたいと思うんですけど、いかがですか。

#### 黄田観光政策課長

ただいま、鳴門のレンコン畑の列車の関係のお話がありました。

例えば、観光列車の四国まんなか千年ものがたりとかでしたら名所等で徐行とかして、景色を楽しんでいただくということをしてるところもございます。ただ、通常のダイヤの場合は、委員がおっしゃいましたように、運行時間の関係とかで徐行というのは難しいかも分かりませんが、その周辺の観光資源のいろんな所を活用してやるというのは、非常に大事なことだと思いますので、例えば臨時列車でありますとか、通常列車以外のところで走らせることができないとか、いろんな可能性について、またJR四国さんともお話をしてみたいと思っております。

それから先ほど、四国DC終了後も効果継続させていくべきというお話でございますけれども、こちらにつきましては、現在テーマをしぼって、独自の観光キャンペーンをやっております。10月からは、平家の落人伝説をはじめ、徳島県が誇る阿波の歴史をテーマにした、「ときめき☆あわ旅～あわ歴史体感博～」を展開しております。

今後は、更にこの効果を浸透させていくという形で、例えば来年8月に西部で世界選手権が行われるウェイクボードでありますとか、あと県南の美しい海岸線、マリンスポーツなどのアクティビティでありますとか、食を中心としたキャンペーンの展開も考えてまいりたいと思っております。

それから2020年東京オリンピック・パラリンピックの公式エンブレムにジャパンプルー、藍色が採用され注目が集まっております。阿波藍でありますとか、阿波人形浄瑠璃、それから阿波踊り、また、平成30年にはベートーヴェンの第九アジア初演100周年を迎えるということで、こういう様々な魅力を活用して、途切れなく誘客につながるようなキャンペーンも展開してまいりたいと考えておるところでございます。

#### 岡田委員

是非、これからも継続できるように、また、各機関が協力また連携しながら取組をお願いしたいと思います。

#### 岩佐委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、商工労働観光部関係の調査を終わります。

これをもって、経済委員会を閉会いたします。（13時24分）